

(11) モクズガニ (甲殻類エビ目イワガニ科)

① 分布

支川上流域の一部を除く集落

② 主に見られた場所

川, 水路, 池

③ 採録した呼び名

- ・ ハサミの毛 ケガニ
- ・ 生息場所 カワガニ
- ・ 柔らかい甲羅 ワタガニ
- ・ 秋に川を流下 オチガニ
- ・ その他 ガソ, クツガニ, ズガニ,
ヤマガニ, ヤマソ, ヤマソガニ



④ 分布と呼び名について

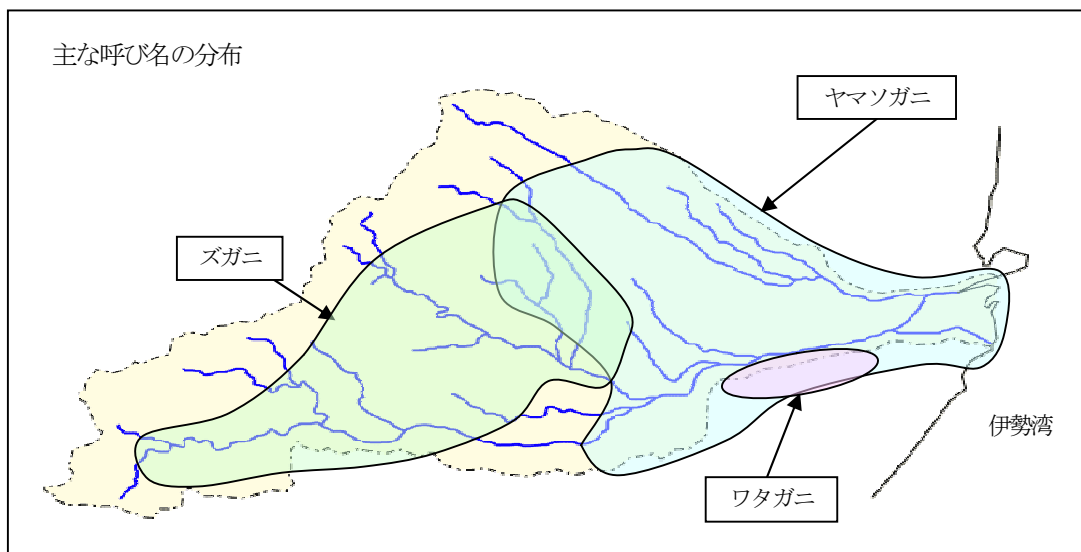
ほぼ流域全域の川, 水路, 池で見られたという。

呼び名としては、「ヤマソガニ」をはじめ、ハサミに毛が生えているという特徴や、川を下ることから名付けられたものなど計10種を採録した。

中下流域において「ヤマソ」又は「ヤマソガニ」、上中流域において「ズガニ」を主として採録したほか、流域全体を通して、大きなハサミに目立つ毛が生えているという特徴から広く「ケガニ」とも呼ばれていた。

また、上中流域を中心に、生息場所である川から由来する「カワガニ」、また上流から下ってくることから「ヤマガニ」、「オチガニ」とも呼ばれた。

その他、井田川地区においては「ガソ」、「クツガニ」、須賀から牧田地区では甲羅が柔らかい個体は「ワタガニ」とも呼ばれていた。



⑤ その他

聴き取りにおいて、下流域の集落で「月夜のカニはべそべそ」という表現を採録した。これは、月が満ちていくとモクズガニはエサがとれず、甲羅が柔らかくなることを意味するという。

(11) -2 サワガニ (甲殻類エビ目サワガニ科)

① 分布

流域の全集落

② 主に見られた場所

川, 水路, 湧水地, 水の染み出しなど

③ 採録した呼び名

- ・ 共通 カニ (全集落)
- ・ 標準和名 サワガニ
- ・ 生息場所 カワガニ, ミゾガニ
- ・ 体色 (赤) アカガニ
- ・ 小型 コガニ, ゼニガニ
- ・ その他 ガニ, イシガニ, イモリ, ザニガニ, ザリガニ, ザルガニ, ヘイケガニ, ヘイタイガニ, ベンケイガニ, ヤマガニ



④ 分布と呼び名について

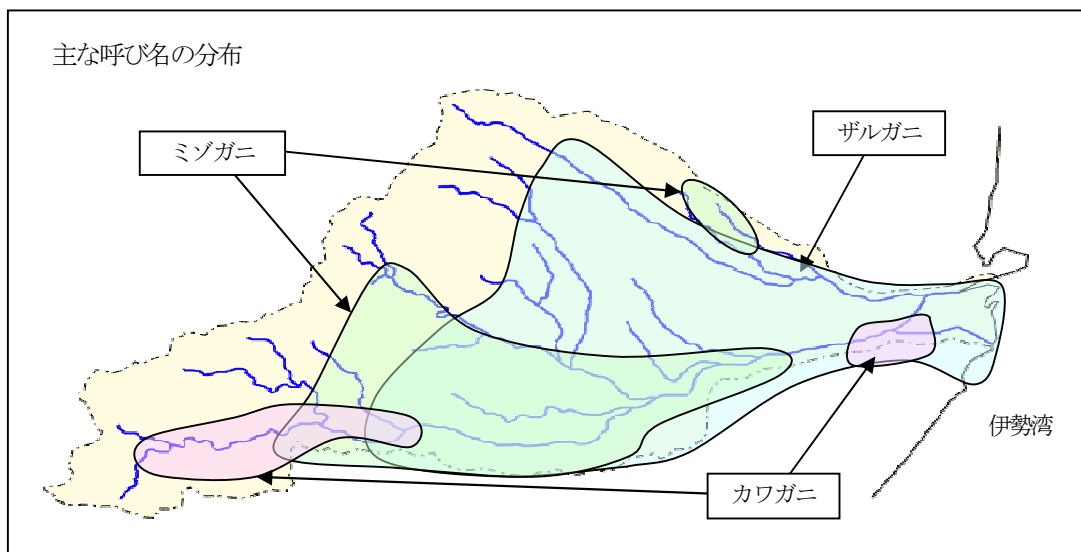
流域全域の川, 水路, 湧水地のほか, 清水が染み出す所などでよく見られたという。

呼び名としては, 一般的な「カニ」をはじめ, 生息場所や体色からのものなど計17種を採録した。

「カニ」を全集落から採録したほか, 「ガニ」と濁った呼び名もほぼ全域で採録され, かつては一般的に使われた呼び名であったと見られる。

また, 「ザルガニ」を中下流域を中心とした広い範囲で採録するとともに, 上中流域の集落では身近な溝川でよく見られたことから「ミゾガニ」と呼ぶ傾向にあった。

その他, 「カワガニ」を関町から加太地区の集落や下流域の集落で採録したほか, 大きなモクズガニに対して, 本種を「コガニ」などと呼ぶ集落も見られた。



⑤ その他

かつては流域全体でよく見られたようで, 夕立などがあると, 多くのサワガニがよく水路から道へ姿を現したという。

(11) -3 スジエビ・ヌマエビ (甲殻類エビ目テナガエビ科・ヌマエビ科)

① 分布

流域の全集落

② 主に見られた場所

川, 水路, 池など

③ 採録した呼び名

- ・ 共通 エビ (全集落)
- ・ 生息場所 カワエビ, ミトエビ
- ・ 体色 (青又は白) アオエビ, シロエビ, シラタエビ
- ・ その他 オンナエビ, コエビ, シバエビ, シマエビ, モエビ



④ 分布と呼び名について

流域全域の川, 水路, 池などでよく見られたという。

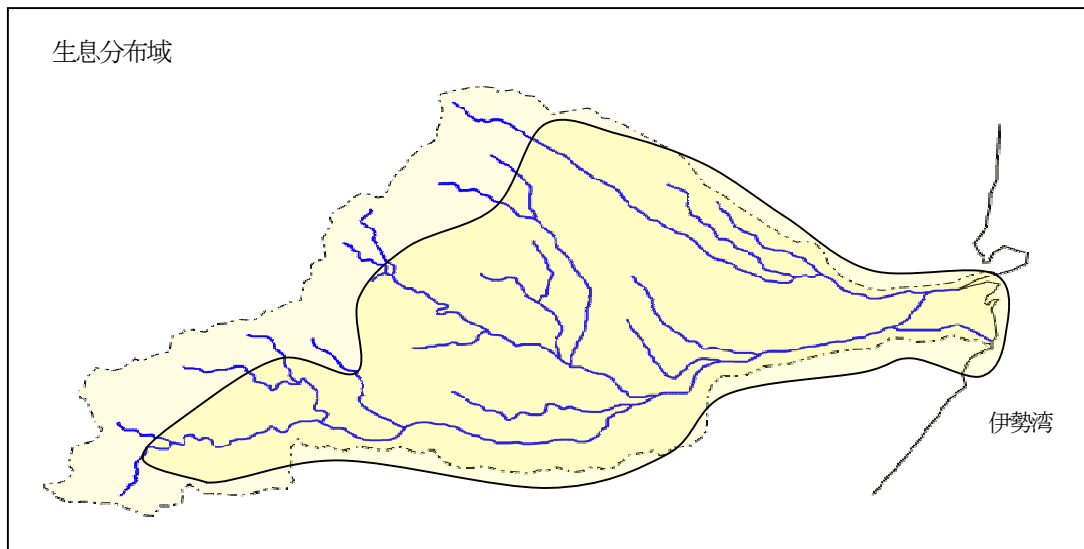
呼び名としては, 一般的な「エビ」をはじめ, 生息場所や体色からのものなど計11種を採録した。

全集落から採録した「エビ」のほか, 生息場所からの呼び名である「カワエビ」も広く流域全体から採録し, 「エビ」と同様に流域で一般的な呼び名であったと見られる。

「モエビ」についてはほぼ鈴鹿川本流沿いの十数集落から, また「ミトエビ」は井田川地区を中心に採録したが, その他の呼び名は地域的な広がりは見られなかった。

また, 「オンナエビ」等, テナガエビとの対比で呼ばれていた呼び名も見られた。

なお, 採録した呼び名には, スジエビ又はヌマエビのいずれか固有の呼び名が含まれている可能性があるが, 調査では区別することなく聞き取りを行った。



⑤ その他

エビの色として, 透明のものや縞模様のものほか, 青い色のものや茶色いものがいたようである。

また, 本種は釣りのエサとしてよく使われたと言う話が聞かれた。

(11) -4 テナガエビ類 (甲殻類エビ目テナガエビ科)

① 分布

中下流域を中心として上流域の集落まで

② 主に見られた場所

川, 水路, 湧水地など

③ 採録した呼び名

- 体の特徴 アシナガエビ, テナガ, テナガエビ, ハソミ
- その他 エビガニ, クルマエビ, サケエビ, シャクエビ, タナカエビ, タナカシエビ, タナカセエビ, ダラカエビ, ダンダカ, ダンダカエビ
- スジエビ等との混称 エビ, カワエビ



(小坂尚照氏撮影)

④ 分布と呼び名について

本川の下流域を中心として, 中流域にかけてよく見られたという。下流域では本川で多く見られたようであるが, 中流域では橋脚の下など水流で河床が少し掘れ込んだ所, 湧水地やその水路等で見られたという。

一方, 上流域になるに従い, 生息情報は少なくなりほとんど見られなかったようであるが, 関町加太地区において生息情報が得られことから, 生息数としては多くはないものの, 幹川全域に分布していたことが伺われた。

呼び名としては, 「ダンダカエビ」や「シャクエビ」といった固有名をはじめ, スジエビとの混称を含め計 16 種を採録した。

多く見られた下流域において多様な呼び名が見られ, 塩浜・内部地区では「ダンダカエビ」, 楠地区で「ダラカエビ」, 長太地区では「タナカシエビ」などを採録したほか, 中下流域では「シャクエビ」, 「クルマエビ」と呼ばれていた。また, 細長いハサミを持つという特徴からの呼び名である「アシナガエビ」, 「テナガエビ」を中下流域において採録したほか, 雌雄(と見られる)で別の呼び名がある集落も見られた。

なお, 生息数が少なくなる上中流域においては, 固有の呼び名はなくなり, スジエビなどとの混称となる傾向にあった。

